

健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会

研究推進検討部会（第3回）議事次第

日時：平成31年3月15日（金）

16:00～17:00

場所：ホテルセンチュリー静岡

3階プラタナス

- 開会
- 議題
 - 1 社会健康医学研究に係る平成30年度の取組及び平成31年度の実施内容について
 - 2 社会健康医学研究の推進について
 - 3 その他
- 閉会

資料

議事次第

- 資料1 健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会研究推進検討部会委員名簿
- 資料2 社会健康医学研究に係る平成30年度の取組及び平成31年度の実施内容
- 資料3 社会健康医学研究の推進

参考資料 社会健康医学関連新聞記事

健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会

研究推進検討部会委員名簿

(敬称略、50音順)

氏名	所属・役職等	備考
なかやま たけお 中山 健夫	京都大学大学院医学研究科副研究科長 社会健康医学系専攻長・健康情報学分野教授	部会長
さこ よしやす 佐古 伊康	しずおか健康長寿財団理事長	
たなか いっせい 田中 一成	静岡県立病院機構理事長	
まつだ ふみひこ 松田 文彦	京都大学大学院医学研究科 附属ゲノム医学センター センター長・教授	
みやた ひろあき 宮田 裕章	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授 東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座特任教授 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 国際保健システム・イノベーション研究科研究科長	
みやち よしき 宮地 良樹	静岡県立総合病院参与兼リサーチセンター長 (京都大学名誉教授)	
やまもと せいじ 山本 清二	浜松医科大学理事(教育・産学連携担当)・副学長	
やまもと としひろ 山本 敏博	静岡県社会福祉法人経営者協議会会長	

計 8 名

社会健康医学研究に係る平成 30 年度の取組及び平成 31 年度の実施内容（予定）

総括	研究分類 (主任指導者)	研究者名	研究テーマ	研究内容等	研究期間	平成 30 年度 取組	平成 31 年度 実施内容（予定）
宮地 良樹	ビッグデータ (宮田 裕章)	森 潔 山本 博之 中谷 英仁	生活習慣改善に関するエビデンス構築とその成果を用いた健診時介入の実施	生活習慣と疾患発症リスクの関係を数値化し、健診時にその個人のリスクに基づいた指導介入を行う。次年度に改善がみられるかどうかを調査し、介入の有効性を検証する。	4 年	・県内 35 市町の同意を得て、国保連合会が保有する KDB データ(H24.4～H30.3)を入手 ・特に維持透析導入や腎機能悪化といったアウトカムの規定因子の解析に着手	・死亡や年間医療費といったアウトカムと生活習慣の関係について検討開始
		小谷 仁人 一原 直昭 中谷 英仁	時間を考慮した要介護特性要因の探索とその結果による保健指導や受診勧奨	介護保険の非利用者と利用者をグループ化し、特定健診の検査結果やアンケートの分布の違いを探索することで、要介護者となる因子を同定する。	2 年	・県内 35 市町の同意を得て、国保連合会が保有する KDB データ(H24.4～H30.3)を入手し、解析に着手	・データを解析し論文化する
		宮田 裕章 山本 博之 平原 憲道 一原 直昭 隈丸 拓	健康長寿に関するアプリの開発研究	医師や保健師が現場で活用できる健康長寿に関する市民向けアプリの開発及び次世代型医療ビッグデータ基盤への展開	2 年	・システム構築及び保健指導アプリ開発のベンダーを選定	・システム構築、保健指導アプリの開発 ・一部市町でのアプリを活用した保健指導の試行実施
		中谷 英仁 一原 直昭 山本 博之	COPD 患者の特徴および疾病・経済的負担の調査研究	COPD(慢性閉塞性肺疾患)の患者や治療の特徴及び財政負担の詳細を明らかにし、エビデンスに基づく県の医療政策に寄与する。	2 年	・倫理審査受審(平成 31 年度に継続見込)	・データ解析を実施
		中谷 英仁 一原 直昭 山本 博之	医療ビッグデータ解析における環境整備	臨床経過を示すグラフ表現モデルを適応し、妥当性を検証する。さらに提案モデルを利用し、医療従事者および患者に与えるインパクトについても考察する。	5 年	・国保連から入手した KDB データを解析用データセットに変換し、該当データ、ノウハウ、粗解析結果を各研究者に共有	・更なる解析用データセットの整備と情報共有 ・統計解析及び結果の論文化
	高木 明 タマシ タービトウ 木谷 芳晴	脳の発達と聴覚に関する研究	データ管理：県下の難聴児のデータベース作成 他 教育研修の場の提供：教師(聾学校、通常校)、保健師、言語聴覚士、医師の研修・育成 コンピュータ制御された音響刺激システムの活用：・種々の音響刺激と脳活動の定量的可視化(NIRS 使用) 高齢者の聴覚障害について：認知症に対する聴覚刺激の効果 他	5 年	・県内の難聴乳幼児実態調査を実施(新生児聴覚スクリーニング検査、3 歳児聴覚検査の集計、分析を実施) ・研修会・講演会を 4 回実施 ・音響刺激システムの選定	・音響刺激システムの運用開始 ・人工内耳装用者の音源定位能の測定 fNIRS を用いて正常乳幼児の語音理解の発達をみる ・引き続き、県下の難聴児のデータ収集と研修会活動を行う	
	タマシ タービトウ ジェイソウ 和ウエル	難聴児・者の社会復帰に関する研究	・NIRS, BESA(EEG)による出生後の言語野発達の脳科学探索 他 ・難聴児・者の適切な介入方法の脳科学的探索 他	4 年	-	・年度の前半までに綿密な研究計画を立案し、後半には実際にデータ収集を精力的に実施(人工内耳装用児・者の fNIRS による言語野発達を見る)	
	吉村 耕治 室 悠介 今村 正明 中谷 英仁	メタボローム解析を主とした疫学的研究	地域住民、健診受診者または病院受診患者を対象とし、血液・尿のサンプルや、客観的な排尿に関するデータを収集する。約 1 年かけてベースラインデータを作成する。データを活用し、夜間頻尿を主とした各下部尿路症状についての研究を行う。又、3 年後に頻尿についての縦断的な危険因子の研究を行う。	6 年	・当院の泌尿器科外来を受診する夜間頻尿患者を研究対象者として決定 ・研究への準備として、排尿日誌を可及的客観的に測定するための機器エッグ®を購入	・泌尿器科として夜間頻尿患者の研究参加者リクルートを行い、順次測定を開始する ・年度内に 20 名の患者のリクルートを目標とする	
	島田 俊夫 田村 尚久 清水 史郎 中谷 英仁	緑茶パウダー摂取による血圧・血管機能・代謝への影響に関する研究	お茶服用前、服用後の経時的データを収集する。緑茶パウダーの生活習慣病改善効果、高血圧治療効果、心機能改善効果等について研究を行う。	5 年	・川根本町にて研究に関する講演会と説明会を開催し、研究協力者 210 名を確保 ・研究協力者に対して、緑茶パウダー摂取前の身体検査を実施	・緑茶パウダー摂取前後の身体検査データを分析	
	中山 健夫 長谷川 敏彦	保健・医療と介護から終末期をつなぐ統合的データ分析システム：「静岡モデル」の開発と運用(仮)	医療ビッグデータに県民の介護保険・死亡状況のデータを含めた統合ビッグデータを構築し、ケアの質の向上と資源配置の適正化を図るエビデンスを得る。	5 年	・研究候補地を選定し、データ提供に関して先方の内諾を得た	・研究候補地とデータ提供に関する契約を締結のうえデータ解析を実施 ・データ提供にご協力いただける市町を増やし、データベースの構築と解析を進める	
ゲノム コホート (松田 文彦)	寺尾 知可史 (研究員)	静岡県におけるゲノム研究基盤構築に関する研究 調整中	1.静岡県立総合病院におけるゲノム解析 2.ゲノム解析基盤の確立 3.コホートのサポート コホート研究について調整中	5 年 -	・研究への準備として、検体やデータの集積に対応するためのゲノムサーバーを購入、設置	・当院の外来患者から研究のための採血を行い、DNA 抽出及び生体材料の集積を開始	

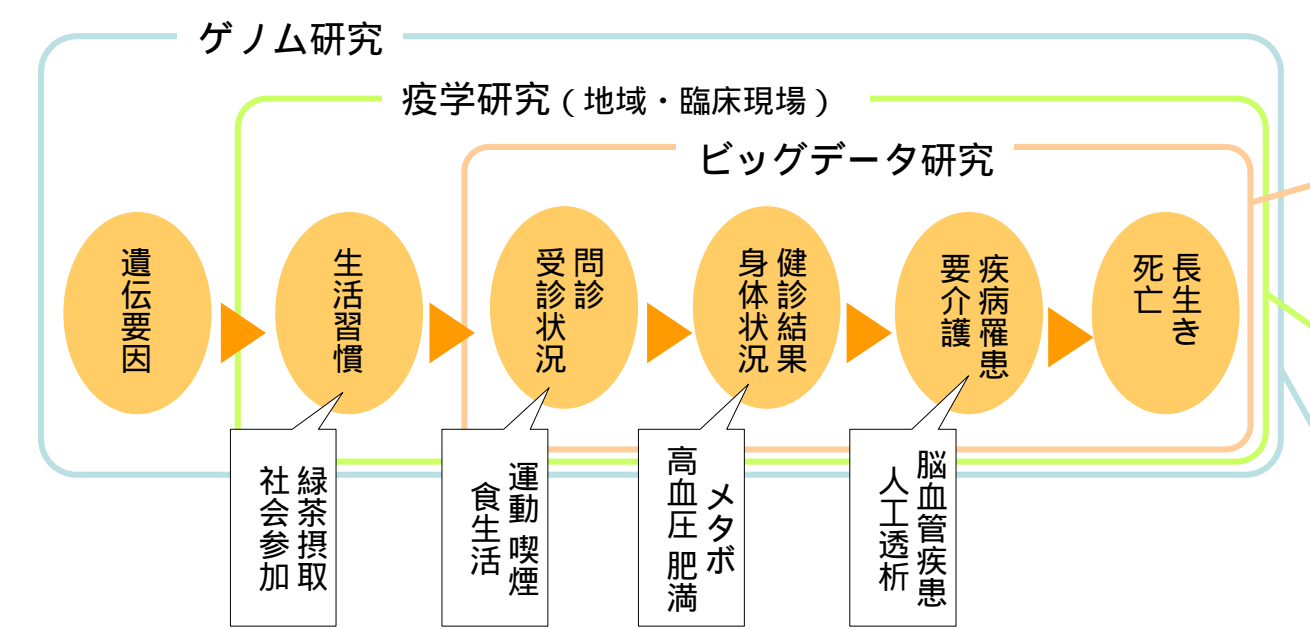
平成 31 年度において、その他新規の研究テーマが追加となる場合があります

社会健康医学研究の推進（案）

1 社会健康医学研究の概要

研究目的 健康増進施策や疾病予防対策に科学的な知見を導入し、県民の健康寿命の延伸を図る。

社会健康医学研究を推進するに当たり、「医療ビッグデータの活用」「効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究」「ゲノムコホート研究」に取り組む。



2 期待される成果及び施策への活用

ビッグデータ	健診結果・受療状況 >>>> 疾病・要介護・長生き 脳血管疾患等になりやすい生活習慣の特定 要介護になりやすい生活習慣の特定 人工透析に至った人の健診結果・受療行動の特定 地域の健康課題の見える化 地域の医療・介護提供状況の見える化 健康施策の量的な効果評価 有効な健康施策の体系化	医療介護施策の立案 健康課題の把握 科学的に有効な施策の重点化
疫学	生活習慣・治療 >>>> 疾病・要介護・長生き 社会参加の介護予防への影響の立証 新たな検査方法の性能検証 緑茶摂取のメタボ・高血圧等への影響の立証 臨床研究への応用	効果的な保健指導 科学的知見に基づいた保健指導、将来予測優先度把握
ゲノム	遺伝要因 >>>> 疾病・要介護・長生き 特定の疾患に罹患しやすい遺伝子の特定 特定の治療法が奏功しやすい遺伝子の特定	健康長寿プログラム 健康長寿要因を生活に取り入れるプログラムの提供
		医療水準の向上 予防医療や先制医療に関する知識や取組の充実
		オーダーメイド指導 個人に最適な医療保健指導の提供

3 今後のロードマップ

